

令和3年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

学校名 府立泉大津高等学校	名前
---------------	----

1 学校教育目標（めざす生徒像）

「どんな社会でも揺るがない土台「心幹」（人間力・教養力・協働的探究力）を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら、自分の人生を、社会を豊かにできる一人前になろう」

2 令和3年度の校内研究の取組み

（1）研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

- ・ビジョン（本校としての身に付けさせたい資質・能力（キー・コンピテンシー））の共有
- ・資質・能力を身に付けさせる授業研究およびその評価の検討

②テーマ設定理由

- ・ビジョンが浸透していない。固まっていない。
- ・令和4年度～の新学習指導要領へ移行に際して、不安感が高まっている。
- ・一斉講義型・教科書で教える授業が主流となっており、転換が必要である。

（2）校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- ・ビジョン（目標）を共有し、目線を合わせていき、指導・評価を一体的に充実させていく
- ・不安が少しでも少なくなるよう議論を尽くす・チームで授業を考える

②具体的な取組み

- ・4者（教員・保護者・地域・生徒）アンケートに基づく学校キー・コンピテンシーの策定。
学校キー・コンピテンシーに基づく教科キー・コンピテンシーの策定。
- ・教科代表者による観点別学習状況の評価を踏まえた授業研究、および全教員による単元の
逆向き設計・パフォーマンス課題と評価の試行。校内・中高連携授業交流。

③取組みの検証方法

- ・生徒授業アンケート値の変容。
- ・教員授業研究アンケート値。

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

①ビジョンの決定・共有（＝学校全体・教科ごとの目線合わせ）

- ・ビジョンが教育活動の決定材料になることが増えた
- ・生徒の資質・能力を問う話し合いが職員室で増えた

②実践の準備が次年度の準備（逆向き設計およびパフォーマンス課題・評価の実践事例集）になった。また課題も徐々に明らかになった。

③3つの資質・能力の育成を図る／その伸びを測る実践が増加した（ふりかえりによる自己調整学習・パフォーマンス課題・クラウド上の共同作成など）。本質的な問いを設定することで、深く考えることのおもしろさに生徒が気づく（本気で考える）授業実践も見られた。

- 授業アンケート平均値の上昇

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

- ・本質的な問いを立てることで、自ら見通しを持って、学びを調整することができていた。
- ・見せ場（パフォーマンス課題）に粘り強く、工夫を凝らしながら挑戦することができていた。
- ・本質的な問いを粘り強く主体的に考えることで、学びを深められていた。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

- ・単元に入るまでに、本質的な問いを立てることが非常に重要だ。
- ・何ができるようになるかを評価するため、生徒たちはよく頑張っていた。その反面、やや多忙感がある。
- ・評価に関しては、形成的評価と総括的評価をはっきりと分ける必要がある。
- ・チームで取り組むことが重要であるが、同一科目間でどこまで揃えるか難しい。

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

- ・「点」でなく「面」の授業改善への課題
シミュレーション担当の先生方など「点」での授業研究が進むが、それが教科や学校全体（「面」）へおりていっていないところに課題がある。授業交流も活発にはならなかった。
- ・評価観の転換という課題
評価をつける「だけ」に終わらないようにする工夫が学校全体として求められる。

(2) 次年度に向けて

- ・「面」での授業充実へ
→ チームごとの自立的な課題設定・課題解決のための授業研究・ふりかえりのサイクルを作る。（組織の形成→文化の形成）
- ・ビジョンを問い続ける機会を作る

令和3年度 校内研修年間実施報告

1 令和3年度の目標(テーマ・主題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン（本校としてのキー・コンピテンシー）の共有 ・資質・能力を身に付けさせる授業研究およびその評価の検討
--

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	～	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回 校内マネジメントチーム (IMPT: 泉-OHTSU Method Planning/Project Team) コア会議 (定例会議 (金曜日2時間目) は32回実施・臨時会議複数回実施) ・学校のねがい ・授業充実に向けて ・内規 等を検討 	
4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・新転任者オリエンテーション 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・教科シミュレーション説明会 ・今年度研究内容・方針共有 	
5	11	<ul style="list-style-type: none"> ・教科シミュレーション報告会1 ・実践と課題の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・5～6月オンラインアンケート実施 (教員・保護者・地域・生徒)
5	25	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル授業・授業交流週間 ・代表者のモデル授業 (複数回) 	
6	22	<ul style="list-style-type: none"> ・教科シミュレーション報告会2 	
7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携授業交流1 	
7	12		<ul style="list-style-type: none"> ・全体検討会 14:00～17:00 ・学校ビジョンの共有・教科ビジョンの検討 ・生徒に資質・能力を身につけさせる実践の検討
7	30	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季読書会 (希望者研修会) 1 ・授業実践を深める専門書を読んで、ざっくばらんに授業を語る会 	
8	6	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季読書会2 	
8	16	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季読書会3 	
8	19	<ul style="list-style-type: none"> ・教科シミュレーション報告会3 	
8	23	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府高等学校教育課程協議会実践報告 	
9	27	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携授業交流2 	
10	4	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会 (希望者質問会) 1 ・内規や観点別学習状況の評価についてざっくばらんに語る会 	
10	6	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会2 	
10	7	<ul style="list-style-type: none"> ・教科シミュレーション報告会4 	
10	8	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会3 	
11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会4 	
11	4	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会5 	
11	8	<ul style="list-style-type: none"> ・教科別検討会1 	

		・内規の論点について意見聴取・質疑 応答	
1 1	9	・教科別検討会 1	
1 1	1 2	・教科別検討会 1	
1 1	1 5 ～ 1 9	・モデル授業（教科代表有志）・授業交流 週間	
1 1	2 5	・教科別検討会 2 ・教科ビジョンの具体化・精査	
1 1	2 6	・教科別検討会 2	
1 1	3 0	・教科シミュレーション報告会 5	
1 2	6	・中高連携授業交流 3	
1	1 8	・中高連携授業交流 4	
1	2 0	・教科シミュレーション報告会 6	
2	1 4		・全体検討会 2 16:00～16:50 ・実践の報告・共有 ・次年度への課題の整理、見通し ・シミュレーション報告書および 実践事例集配付
2	末		・研究紀要配付予定

学校番号 (408) 府立 (泉大津高等) 学校

令和4年度 校内研修年間計画

1 令和4年度の目標(テーマ・主題)

<ul style="list-style-type: none"> ・「面」での授業改善 <p>自立的な課題設定→課題解決のための実践→ふりかえりの共有</p>
--

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4		・教科別チーム授業研究主担者を募集	
4 ～ 5		・教科別チームで授業研究課題を設定	
5 ～		・教科別チーム授業研究主担者会議 実践と課題の共有 → 5月以降、月に1回を定例で行う	
6	中		・授業研究モデル授業・授業交流週間A
7		・中高連携授業交流1	
7			・実践報告会 ・モデル授業の実践報告・分析 ・授業研究セルフチェック
8		・夏季読書会 (希望者研修会)	
10		・中高連携授業交流2	
10		・CAP1 (Check Action Plan) ・ビジョンに近づいているか、教員・生徒の相互でふりかえり、ビジョンを問い直す	
11	上		・授業研究モデル授業・授業交流週間B
11	下		・実践報告会 ・モデル授業の実践報告・分析 ・授業研究セルフチェック
12		・中高連携授業交流3	
2		・CAP2 (Check Action Plan)	
2			・全体検討会 ・研究実践の総括 ・次年度への見通し

★大津校の「ねがい」

どんな社会でも揺るがない土台「心幹」を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら、自分の人生を、社会を豊かにできる一人前になろう



たとえば、こんな力を身につけた人になろう

人間力	教養力	協働的探究力
【自立心】自分の良さを理解し、社会に貢献できる人 【自律心】自分を律して、誠実に関係をつくれる人 【共生】違いをみとめあい、思いやりのある人	【基礎力】基礎・基本の知識・技能を身につけた人 【言語活用能力】柔軟な発想で、意見を伝え合える人	【問いただす力】アンテナを広くはって、？を見つけられる人 【課題解決力】目標達成のために、行動できる人 【根気力】あきらめず、試行錯誤して学びを深められる人 【チーム力】役割をわかちながら、チームで納得解を出せる人



★「ねがい」を実現するための、各教科・教育活動の「ねらい」

目標Ⅰ. 知識・技能の習得 目標Ⅱ. 思考力・判断力・表現力等の育成 目標Ⅲ. 学びに向かう力・人間性等の涵養

国 語	I. 実社会に必要な国語を使いこなすことができ、言葉の特質や言語文化を理解して表現に活かすことができる。
	II. 言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や深く共感したり想像したりする力、構成や展開を工夫しながら伝え合う力を身に付ける。
	III. 言葉のもつ価値を認識し、自らの言語感覚を磨いた上で、ものの見方や感じ方、考え方を深めようとする。

数 学	I. 基本的な概念、原理、法則に基づいて、正しく計算できる。
	II. 日常的な事象に対して、自ら考え立式ができる。自分の考えを表やグラフなどを用いて論理的に他者に説明ができる。
	III. 自ら疑問を持ち、間違いを恐れず粘り強く学ぶ力。自分の解答や実践を振り返り、分析することで自らの学びを調整することができる。

体 育	I. 各種目のルールを理解し、安全に運動ができる。種目の特性に応じて必要な技能について理解し、力を発揮することができる。
	II. ルールやマナーを理解し、自他の課題に応じたゲームや記録会ができる。学習した練習を基に、自発的に課題解決に向け練習や試合などに取り組むことができる。自他の課題やレベルに応じて練習やゲームで工夫することができる。
	III. 自他の課題に気づき向上させようとする。課題に応じて練習に主体的に取り組んだり、他者と協働して解決しようとする。課題に対して粘り強く挑戦し、解決に努めようとする。

英 語	I. 外国語の音声や語彙、表現、文法などの基礎的な知識を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、日常場面で活用できる。
	II. 身近な話題である日常生活に関することや社会的な事柄について大まかに捉え、前もって準備した上でコミュニケーションを行う状況に応じて自分自身のことや他者のことを表現できる。
	III. 外国語を通して学ぶ事物の背景にある文化に関心を持ち、継続して学習を進めながら、外国語を用いて互いに意見を主体的に交換できる。

地 歴 公 民	I. 現代社会に生じる諸課題に対し、解決をめざすために必要な知識・教養・集中力。地理的、歴史的な資料を適切に読み取り、現代社会において自らの生活に活かすことのできる情報をまとめる。
	II. 現代社会において多様性を認めつつ、地理や歴史にかかわる諸課題に対する自らの主張を他者に伝える力。
	III. 何事にも積極的に取り組む力社会の一員として社会的課題を自分ごととして捉え、積極的に参画しようとする態度。

理 科	I. 自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な基礎知識及び実験における基本操作を身につけさせる。観察・実験から得られたデータを視覚化することができる。また、視覚化されたデータを整理・分析できる。
	II. 知識をもとに課題を設定し、その解決のために行動できる。実験・観察をもとに得られた結果を整理・分析し、論理的に他者に説明できる。
	III. 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

芸 術	I. 音楽・美術・書道の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。
	II. 見方・考え方を働かせ、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる。
	III. 作品に試行錯誤しながら粘り強く取り組み、感性を高めていく。心豊かな生活や社会を創造していくことができる。

家 庭	I. 生活を営むために必要な人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活などの基礎的な知識を理解しているとともに、それらに係る技術を身につけている。
	II. 生涯を見通して、家庭や地域および社会における生活の中から問題を見だし、課題を解決する力を身につけている。
	III. よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

情報	I. 自分自身の目的に応じて、情報を活用するための基となる情報手段の特性の理解、および情報そのものについて理解している。
	II. 問題解決において、情報手段を適切に活用することと、主体的に情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手に応じて発信および伝達することができる。
	III. 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、情報社会に積極的に参画しようとする態度が身についている。

特別活動	I. 社会や集団における多様性に関する認識を深め、共生社会を実現しようとする態度を養う。
	II. 多様な他者と協働しながら、集団で活動するための行動の仕方やその意義について理解を深め、それを生かした集団で課題解決する力を身につける。
	III. 自身のキャリアに見通しを持ちながら、社会や集団への主体的な参画を通じて、自己の在り方・生き方について自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

総合探究	I. 情報の収集・整理を計画的に行うなど探究する方法・意義を理解し、さまざまな学びで得た知識・技能を相互に関連付けながら実践することができる。
	II. 協働で納得解を創造することができ、また、実社会と自己との関わりの中から、問いを見出し、課題を立て、主張や提案ができる。
	III. 自己や社会へ興味・関心を広げ、他者と協働しながら、粘り強く情熱を持って物事に取り組むことで、より良い社会の実現に向けて学び続ける態度を養う。